

④ $8.2 \times 230$	⑤ $0.6 \times 147$	⑥ $1.312 \times 6$
□	□	□

- ③ 14名……73%  
 ④ 14名……73%  
 ⑤ 19名……100%

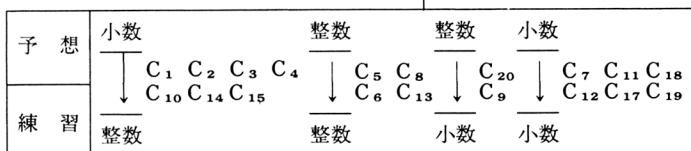
①～⑤ 89%

### 結果

- 全問正解 C<sub>1</sub>, C<sub>2</sub>, C<sub>3</sub>, C<sub>4</sub>, C<sub>5</sub>,  
 C<sub>6</sub>, C<sub>7</sub>, C<sub>10</sub>, C<sub>11</sub>, C<sub>13</sub>,  
 C<sub>18</sub>, C<sub>19</sub>, C<sub>20</sub> 13人
- ③④の0の消し忘れ C<sub>8</sub>, C<sub>12</sub>, C<sub>15</sub>,  
 C<sub>16</sub> 4人
- 九九の誤まり ③  $8 \times 5 = 35$  C<sub>9</sub>  
 1人
- ④の0の消し忘れ C<sub>14</sub> 1人

計算のようすをみると、  
 ○整数化した児童……11名  
 ○小数点を途中につけた児童……8名  
 これを予想の段階とくらべると次のようになる。

○いくらかずつ変化している。



ま  
と  
め  
次時予告

練習題 ⑥, ⑦を次時の問題にする。

- ③ 小数第三位までの小数に、整数（1位～3位まで）をかける計算方法を理解させる。

前時に残された問題を確かめて

1.312×6 3.26×23のようにかけられる数の小数点以下のけた数がふえたときのかけ算のやり方は、どうなるだろうか。

これを、1つにしばり事実を含む問題にかえた。

1 m の重さが、1.312 kg の鉄ぼうがあります。この鉄ぼう 6 m の重さは、何kgでしょうか。

あとは、第1時の流し方と同じに展開させた。

(反応の記録は省く)

思考の移り変わりは、次のようにであった。  
 (記録いでたもの)

第三時は、話し合いの混乱を避け、時間的余裕をもって、練習題を多くやらせるために問題を生活的な問題に、おきかえた。

以下○題意をとらえる。

- 自分なりに解決する。
- 答えの正しいものをさがす。
- 計算方法を見つけだす。
- 練習題をする。